

肺がんに関するキーメッセージ

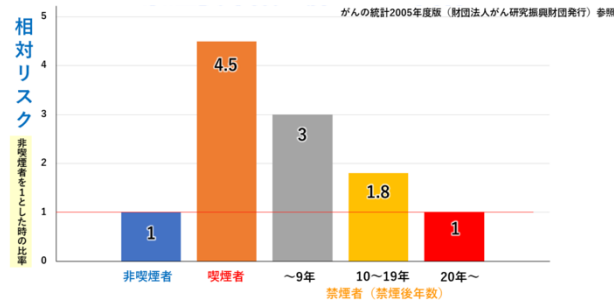
1. 胸部レントゲン検査で異常を認めた場合は必ず精密検査（CT検査）を受けましょう
2. 喫煙歴がある方は1年に1回の低線量CT検査を検討しましょう

肺がんの特徴

肺がんの発症率は**50歳以上から急増**します。また、日本人が一生のうちに肺がんにかかる割合は男性で7.4%、女性で3.1%です。

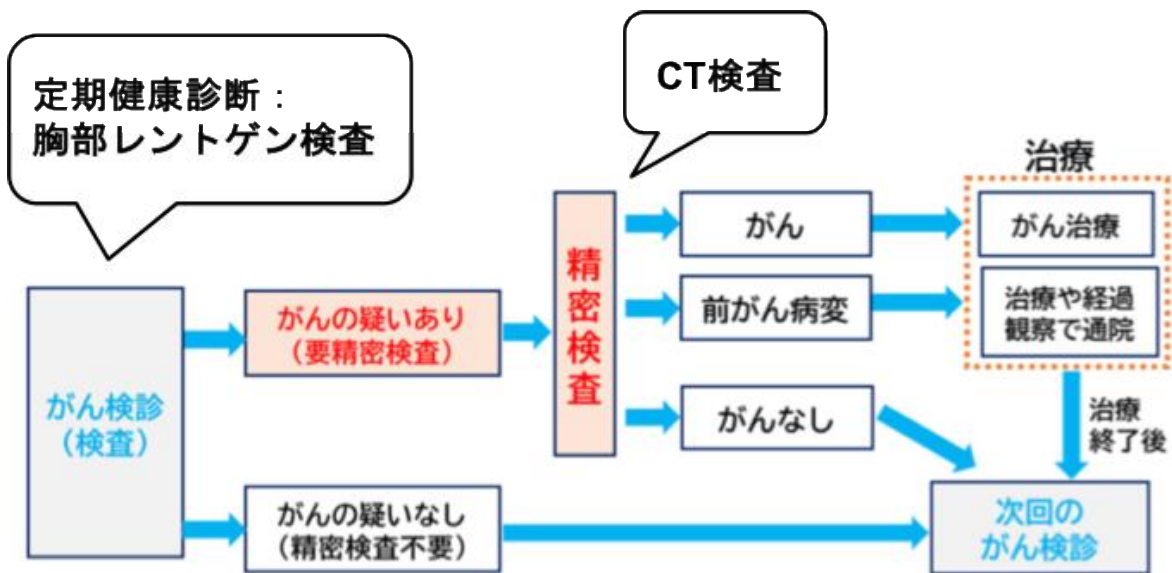
非喫煙者に比べて**喫煙者**が肺がんにかかるリスクは**男性で4.4倍、女性で2.8倍**と高くなります。また、受動喫煙の曝露を受けた人は、そうでない人に比べてリスクは1.3倍増加します。

禁煙することで経年でリスクは低下し、20年の禁煙で非喫煙者のリスクと同等になることが報告されています。



出典：TOSオンライン 禁煙後のリスク！死亡原因1位のがん 肺がん 治療と予防

肺がん検診の流れ



出典：厚生労働省 がん検診

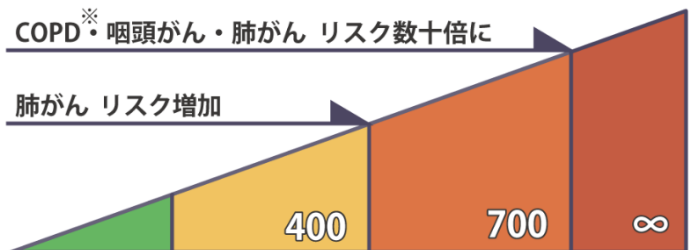
毎年、定期健康診断で受けている胸部レントゲン検査が肺がんのスクリーニング検査となります。**胸部レントゲン検査で要精密検査の判定となった場合は、CT検査での精密検査を受けることが重要**です。

国立がん研究センターが提案する重喫煙者への検診案

肺がんのリスクが高い方、つまり**喫煙をよくしている方（重喫煙者：喫煙指数600以上）**に**低線量CT検査を毎年実施（50歳～74歳）**することを国立がん研究センターは推奨しています。

喫煙指数とは「1日の平均喫煙本数に喫煙年数をかけた値」です。喫煙指数が高いとがん等のリスクが高まります。

例）一日20本×30年間喫煙＝600



※COPD（慢性閉塞性肺疾患）
たばこの煙などの有害物質を吸い込むことによって、せきやたん・息切れが生じる。

ソニー健康保険組合 禁煙豆知識・喫煙指数（プリンクマン指数）とは？より

これまでの肺がん検診

たばこを吸わない人/時々吸う人

胸部X線検査

(40歳以上、1年に1回)



たばこをたくさん吸う人/
たくさん吸っていたが止めた人

胸部X線検査

(40-49歳、1年に1回)

胸部X線検査に喀痰細胞診を追加
(50歳以上、1年に1回)



新しい肺がん検診(案)

たばこを吸わない人/時々吸う人

胸部X線検査

(40-79歳、1年に1回)



たばこをたくさん吸う人/
たくさん吸っていたが止めた人

胸部X線検査

(40-49歳、75-79歳、1年に1回)

低線量CT検査

(50-74歳、1年に1回)

禁煙指導

